

Vine

「地域の中核、世界の人材」
UNIVERSITY OF YAMANASHI

山梨大学広報
ヴァイン

2015
vol.26
JULY

特集 **学長オフィスアワー**
特集 **国際交流センター**



【人物発掘】 小林 拓 准教授
大学院総合研究部 生命環境学域 生命環境学系(環境科学)

【ゼミ紹介】 医学部薬理学講座

【ぴっくあっぷレッスン】 生活と健康I・II

【サークル紹介】 山梨大学女子蹴球部／東洋医学研究会



学長オフィスアワー



6月22日、学長オフィスアワーの初回を記念して、
島田学長と学生5名の懇談の様子取材しました。



一番大事なのは
「コミュニケーション」

島田 眞路

2015年4月に山梨大学長に就任。
.....
東京大学医学部医学科卒業。医学博士。
第5回国際研究皮膚科学会会長(2008年)などを歴任。
2012年から日本皮膚科学会理事長。

学長●医学部附属病院長を6年、教授は20年間務めてきました。病院長職の経験から、一番大事なのは「コミュニケーション」だと思っています。

そこで、毎週月曜日の10時から12時くらいまでの時間で、「誰でも気軽に入れるオフィスアワー」を設置しました。「学長と対話」というとなかなか敷居が高いと感じてしまうかもしれませんが、アポ※をとって来ていただければ気軽にお話しできます。今回は第一回目ですが、皆さんあまり緊張せずに、言いたいことを言ってもらって、答えられることであれば答えていきたいと思っています。

上杉●職場で希望を出し、試験を受けて教職大学院に入学しましたが、講義内容が興味深いです。根本的な学校のこと、心理学的な観点からの子どもとの関わり方のこととか、学校とはどういう意味があるのか、そんなところまで学ばせてもらっています。

「ストマス※」という学部生からすぐ修士に入った若い学生7名と現職教員8名、合わせて15名と一緒に授業を受けて、現職教員もすごく勉強になるし、教員を目指している若い学生には、現職教員から生きた現場の経験が伝えられます。



若い学生とのコミュニケーションがすごく勉強になる。山梨大学に教職大学院があるっていうのが、とても貴重なことで、たくさんの先生に学びにきてほしいなと思っています。

上杉 春樹

大学院教育学研究科教職大学院の課程(教育実践創成専攻)1年次
現職教員学生
.....
「昨年が教員生活13年目。6年生を送り出し、ちょうど節目だったので、かねてから行きたいと思っていた教職大学院に入学しました。」

学長●学生と現場の先生たちとのコミュニケーションが、上手に図れていいですね。

上杉●学長がおっしゃった、コミュニケーションがすごくいい学びになってるなと感じます。山梨大学に教職大学院があるっていうのがとても貴重なことで、たくさんの先生に学びにきてほしいなと思っています。

学長●ありがとうございます。上杉さんの場合は、学生さんとしては、落ち着いている方だと思っていましたが、やっぱり、そういうキャリアがおりなんですね。

上杉●大学院には、学び直して来させていただいています。そこで感じるのは学生さんがとても賢くて、私は学部のとくも梨大※だったのですが、勉強に対してそんなに意識が高くなかったので、今の若い学生たちには驚きます。

神山●授業中は確かにまじめに受けていますが、大学生らしく、のびのびとするときも実際にはあるので、とても賢いと言われるほどではないかなと話を聴きながら思いました。



現職教員の方から、「ここはこうした方がいいよ」とアドバイスもらって、去年一年間で自分の「教師」という職業に対する考え方やどんな風にやっという展望がすごくよく見えました。

去年は英語教育系に現職教員の方が4人いらっやっていて、「ここはこうした方がいいよ」とアドバイスをもらって、去年一年間で自分の「教師」という職業に対する考え方やどんな風にやっという展望がすごくよく見えました。

杉本●僕は3年生で高専から編入してきて、修得単位の関係で、1、2年生と一緒に授業を受ける機会がかなりありました。その中で下級生と話をすることが多かったのですが、1年生入学後すぐに授業が始まると、予備知識が少ないので、ついていけないことがあるようです。僕は高専で5年間過ごしてきているので、ついていけない学生を手助けするだけでなく、優秀な技術者を育てるお手伝いという意味で、特に1、2年生のまだあまり工学になれていない人に対して上手にアプローチできればと思いました。

神山 祥

教育人間科学部学校教育課程
言語教育コース英語教育系3年
.....
「前期の教育実習が終了して、後期の教育実習に向け準備中です。」

去年は英語教育系に現職教員の方が4人いらっやっていて、「ここはこうした方がいいよ」とアドバイスをもらって、去年一年間で自分の「教師」という職業に対する考え方やどんな風にやっという展望がすごくよく見えました。



杉本 武志

工学部情報メカトロニクス工学科4年
昨年高専を卒業後、3年次編入。

「現在は、人の上半身をアシストする機械を作る研究を行っています。」

確かなものを身につけた技術者を目指すためには、ただ科目を履修することだけではダメなのかなと思います。

学長●杉本さんは高専から来られたから、もともとバックグラウンドがしっかりあるのでいいんでしょうね。

杉本●僕は高専での経験があるため、結構すんなり大学の授業にも入れましたし、「これやったことあるな」って授業もいくつかありました。ただ、僕が高専の1、2年のときどうだったかっていうと、やっぱり成績も全然良なくて、専門科目の単位もぎりぎりの状態でした。4年間という短い中で、大学院も含めると6年間で確かなものを身につけた技術者を目指すためには、ただ科目を履修することだけではダメなのかなと思います。

学長●就職の関係でいうと、4年生のお二人は、進路は決まっているんですか。

杉本●僕は大学院に進学することを決めています。



齋木 真琴

生命環境学部環境科学科4年

「環境系に興味があって、環境科学科に入学しました。クラブ活動は、3年間アイスホッケー部で、マネージャーをしていました。」

ネパールに行ってきました。地元の学生と話すとき意識が高くて、自分ももっと頑張ろうと感じました。

齋木●私も大学院に進む予定です。現在、水質の研究をしていて、4月にネパールへ行ってきました。地元の学生と話すとき意識が高くて、大学院へ進学して、自分ももっと頑張ろうと感じました。

学長●海外の学生とうまくコミュニケーションできましたか。

齋木●会話は、単語だけで乗り切りました。英語力がなかったとしても、伝えたい気持ちや会話したいという気持ちが大切だと思いました。

青木●私は、展示会の時に海外の方が英語で話しかけてくださる機会が多々ありまして、そのときに、単語しか出てこないのが悔しいなって思いました。もうちょっと流暢に話せることができればと思いました。

学長●青木さんは、今、修士2年ですが、振り返ってどうですか。

青木●私は工学系は基礎が重要だと思っています。特に機械の分野はそうなんですけれど、数学だったり、材料の知識だったり、研究室に入ってから「あの時勉強したことだ」とその知識のつながりが分かるんです。そこまでいけば学ぶことの楽しさが見えてきます。学部3年生までは多少辛いかもしれませんが、それを乗り越えて、「楽しさ」にたどり着いてほしいです。いろいろと学べて、無茶ができる学年っていうのが、学部3年までだと思っているんですよ。



青木 今日子

大学院医学工学総合教育部(修士課程)
機械システム工学専攻2年

「TKA※という膝の軟骨を取り換える手術の術後の歩行矯正に用いるロボットの開発をしています。」

工学系は基礎が重要なんです。研究室に入ってから、その知識のつながりが分かりました。

※アポ…「アポイントメント」の略。面会や会合の約束のこと。「アポイント」とも。

※ストマス…「ストレートマスター」の略。大学卒業後、そのまま大学院に進学した学生のこと。

※梨大…「なしだい」。山梨大学の略称。

※TKA…人工膝関節置換術(Total Knee Arthroplasty)のこと。

学生の皆さんが、より充実した大学生活が 過ごせるよう改善していきたい

最初は緊張の面持ちだった学生たちでしたが、次第に慣れ、時折笑いが起こる場面もあるなど、リラックスした雰囲気の中にも、活発な意見交換が行われました。

最後に島田学長から、「学生の皆さんが、より充実した大学生活が過ごせるよう努めていきたい」との言葉で締めくくられ、今回学生から出された意見は、今後、改善に向けて検討していく予定です。



学長と学生・教職員が直接対話する機会を設けるため、原則毎週月曜日10:00～12:00に、「誰でも気軽に入れるオフィスアワー」を行っています。

【問い合わせ先】山梨大学総務部総務課 <E-mail:officehour-tr@yamanashi.ac.jp>



国際交流センター

国際交流センターは、2014年にできた新しいセンターです。
初代センター長の茅 暁陽(マオ シャオヤン)先生に
お話を伺います。



国際交流センター長 茅 暁陽先生

まず、国際交流センターが
設立された背景や経緯を
教えてください。
留学生センターが
国際交流センターに
なったのでしょうか？

インターネットの登場によって、あらゆる情報がリアルタイムで地球上を駆け巡る時代が到来し、従来の地理的制約など物ともせず、世界の各地で異文化が入り交じる姿を目の当たりにするようになってきました。本センターはこのような無国境化時代の要請を受け、これまでの留学生センターの役割を拡大し、さまざまな国際交流支援活動を通じて本学のグローバル化を総合的に活性化する目的で、2014年度にスタートを切ったところです。

具体的には
どのようなことを
しているのですか？

本センターでは、留学生(2015年5月現在、19か国、170名)に対する日本語・日本事情・異文化理解教育、海外留学に必要な語学の研修や修学・生活の助言・指導はもちろんのこと、協定校との交換留学や海外企業でのインターンシップ、地域社会・企業との交流・連携等をこれまで以上に幅広く展開していこうとしています。私が描く国際交流の理想像は、このような「外なる国際化」の多彩なプログラムに加えて、キャンパスや周辺地域の至るところで、海外からの留学生と国際化を真剣に考えようとしている日本人学生や地域住民が日頃から直に交流を重ねている姿「内なる国際化」の具体化です。

「内なる国際化」ですか？

ええ。海外からの留学生には、山梨の豊かな自然環境や歴史の深さ、そして本学の先端的な研究の取組みについて、日本人の学生たちや住民が発する飾らない言葉の端々から直接実感してほしいです。

一方、グローバル人材を目指す日本人学生や国際交流の一助を担う地域住民にとっても、多くの国や地域からの留学生がともに学ぶこのキャンパスこそ、生きた外国語を学び、複数の異国文化を一挙に体験・比較できる、最初にして最高の留学先と捉え直してもらいたいです。

日本にいながらにして
「留学」という
ことですか？

はい。本センターは、「グローバル共創学習室(以下、G-フィロス)」というものを運営しています。G-フィロスには世界各国から山梨大学に来た留学生が毎日集い、本学の学生の皆さんが気軽に交流できるようになっています。昼休みにはお弁当を食べながら英会話を楽しむことができますし、午後は英語の宿題のチェックをしてもらったり、英語のプレゼンテーションの練習に一緒に取り組んでもらったりすることもできます。また2015年度前期は、中国語、フランス語、ドイツ語、スペイン語、そしてタミル語を母語とする留学生が各国語の会話練習や出身国の文化紹介をする場を週に一度提供しています。学生の皆さんにはG-フィロスでさまざま体験をしてもらい、異文化に対する理解を深めてもらいたいと思っています。

素晴らしい取り組みですね。

公園に喩えるなら、主役はあくまで、そこに集い語り合う皆さん方です。私たちセンターは、誰もが気持ちよく公園を利用してもらえるように、常に青々とした芝生を整備し、四季折々の草花で風景を彩る管理人の役割を担っていると考えています。私たちのキャンパスを「地球市民」のための交流の場に変貌させたいのです。

山梨大学からの海外留学について

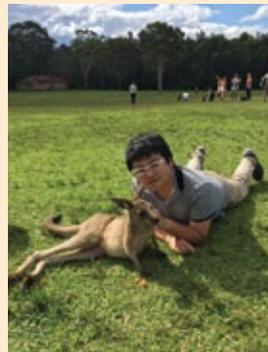
社会や産業界の国際化が進む中、さまざまな分野で国際的に活躍する人材が求められています。国際交流センターでは、海外留学を考えている皆さんのサポートを幅広く行っています。

1) 半年から1年の交換留学

本学では、交流協定を結ぶ欧米やオーストラリア、アジアの大学との交換留学を行っています。交換留学とは、1学期から1年間の期限で海外の大学と相互に学生・研究交流を行うものです。在学したまま留学するので本学に授業料を納めていれば、留学先の協定大学の入学料、授業料、検定料を納める必要はありません。

交換留学先で履修した授業科目については、所定の手続きを経て、山梨大学の所属学部・研究科で単位認定を受けることも可能です。それぞれの派遣大学には、交換留学生の受け入れ条件があります。

オーストラリアのシドニー工科大学に留学中の久保田さんからの報告です。



シドニー工科大学に留学中の久保田さん

医学部看護学科2年の久保田雅徳です。2015年2月下旬から、山梨大学の交流協定校の一つであるオーストラリアのシドニー工科大学で、およそ10ヶ月の予定で留学中です。

前半はAustralian Language and Culture Studiesというプログラムで英語力の向上をめざし、後半は学部で自分の専門分野の科目を現地の学部生と共に受けたいと思っています。

私の留学の目的は、当初、とても漠然としていました。しかし、さまざまな経験をしたという強い思いが山梨大学入学当初からあり、大学時代の早い段階で海外経験できればと思っていたのですが、それが留学への原動力だった気がします。それから留学計画を立て、英語試験を受け始め、交換留学に応募したのでした。

いざシドニーへ来てみると戸惑うことも多々ありますが、毎日英語はもちろんのこと、オーストラリアの文化、価値観、ものの考え方を学んでいます。さらに、さまざまな国籍の学生が在籍しているので、彼らとコミュニケーションをとりながら彼らの文化や考え方の違いを知ることができ、とても楽しい、有意義な毎日を送っています。せっかく与えていただいた機会を無駄にしないよう残された期間を大切に過ごしたいと思っています。

2) 短期語学研修・異文化体験・インターンシップ

上記の交換留学のほか、夏季及び春季には、気軽に参加できる語学研修、異文化交流プログラムやインターンシップを含んださまざまな研修が展開されています。まずは語学力を伸ばしたい、

異文化を体験したい、長期の交換留学の前段階として「留学」を体験してみたい、海外でインターンシップを行いたい、という皆さんにお薦めのプログラムです。



中国杭州電子科技大学の学生と創作漢字グループワーク



グローバル共創学習室でガーナの文化紹介



華道体験をする留学生

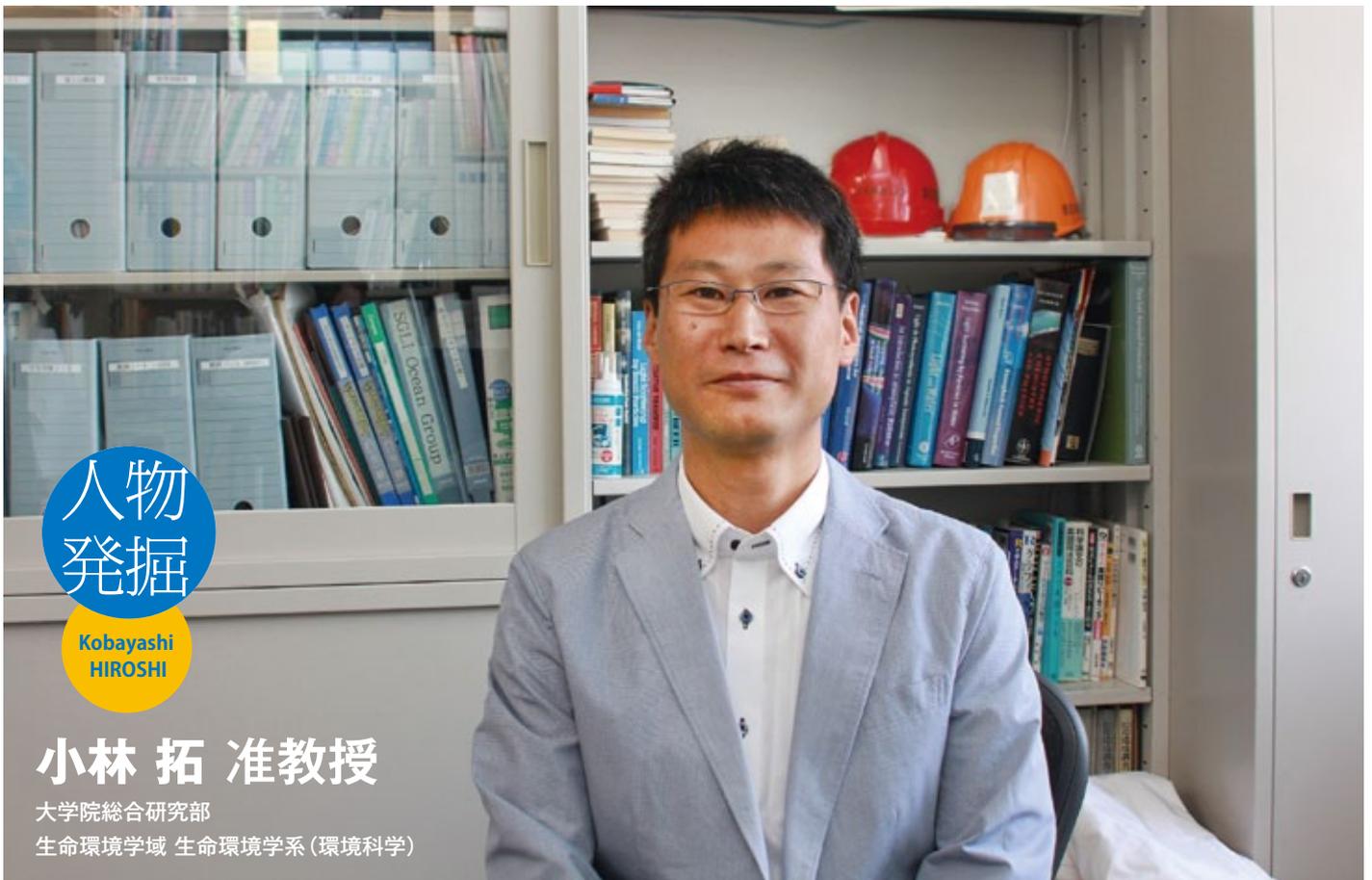


中国杭州でのインターンシップ



英国レスター大学春季英国研修の一コマ

留学に関心を持ち始めたら、早い段階で、教育国際室(甲府東キャンパスB-1号館222)にご相談ください。留学を専門にアドバイスする教員を紹介します。一緒に留学計画を立てていきましょう。



人物
発掘

Kobayashi
HIROSHI

小林 拓 准教授

大学院総合研究部
生命環境学域 生命環境学系 (環境科学)

「光が関わる気候変動や気候影響を評価することと、光を使って環境を測定することが大きな仕事」と、わかりやすい言葉で自分の専門分野を説明してくれた小林 拓 准教授。気候変動の謎に迫るため、自ら開発した観測装置を携えて、南極で太陽のオーレオール(光環)を観測したり、北極で雲を調べたり…。アクティブに研究活動を展開しています。

ものづくりや機械いじりが大好き。 中学卒業後は、迷わず工業高専へ。

父親の転勤に伴い、千葉、鹿児島、そして青森の地方で育ちました。海で泳いだり、森の中を探検したりと、活発で物怖じしない子でした。反面、黙々と何かを作ることも好きで、小さい頃はレゴブロック、小学生の頃は雑誌「子供の科学」に夢中でした。中学生になると、ハンダ付けを覚えて少し高度なものづくりに挑戦したり、ポケットコンピュータを手に入れ簡単なプログラミングを試みたり…。そんなわけで、普通高校ではなく工業高専に進学しました。

物理の先生に感化され、方向転換。 編入した北海道大学で、 環境問題に取り組むことに…

高専では、電子制御工学科でロボットや回路を作るはずが、なぜか教養科目の物理に魅かれ、先生の研究を手伝うことに。卒業研究もその先生の指導のもとで、植物の葉にレーザー光線をあて、はね返った光によ

てその植物の健康状態を調べる研究をしました。そうしたなかで環境問題への興味が膨らみ、卒業後は北海道大学の衛生工学科へ編入します。

衛生工学は土木環境の一分野ですが、我々が健康に暮らせる社会を研究対象としていることから、その学問領域は化学や医学、生物学、生態学などにも広がっています。私は大気汚染を扱う研究室に所属し、人工衛星を利用して赤潮プランクトンを調べる研究をしました。「なぜ大気の実験室で海の研究を?」と思われるかもしれませんが、研究室では人工衛星を利用した大気中の微粒子の研究もしており、私の研究は、その手法を海に転用したものでした。

第42次日本南極地域観測隊 越冬隊に参加

山梨大学に赴任したのは1999年4月でした。学生時代は人工衛星のデータを理論的に解析していましたが、その頃には、現地へ行って「測る・調べる」仕事がしたいと考えようになっていました。

第42次日本南極地域観測隊越冬隊への派遣が決まったのは、その頃です。人工衛星打ち上げの際には、検証のため現地で「測る」ことが重要になります。ちょうど日本が人工衛星を打ち上げるタイミングでしたので、海洋上や南極大陸でデータを取る仕事に携われることのできる貴重なチャンスでした。また、南極などの極地は、気候変動の影響がより早く現れる場所でもあります。実際に現地で排気ガスや焼き畑の煙など人間活動によって生じた物質が含まれているのか、含まれているとすれば何がどの程度含まれているのかといったことを測り、人間活動の影響を調べてみたいとの気持ちもありました。

1年に及ぶ南極での生活でしたが、昭和基地は想像以上に設備が整っていて不自由はありませんでした。基地内の温度は快適な状態に保たれ、美味しい食事も提供されます。ただ、一歩外に出ればそこは南極。気を抜けば死と隣り合わせの過酷な環境であることには違いありませんでした。



砕氷艦「しらせ」にて、大気中の微粒子量を測定しました。

興味を持ったら行ってみよう、躊躇しないでやってみよう。そこから道は拓かれる。



二度目の南極で目の当たりにした異変

昨年11月から4ヶ月間、今度は夏隊として南極観測隊に参加する機会に恵まれました。前回の派遣から約14年。再び訪れた南極では、いくつかの異変が起きていました。

ひとつは、夏の間には珍しい勢力の強いブリザードに遭遇したこと。強風の影響で船のアンテナが折れるなど被害が出ましたし、私自身も調査のため雪上車で生活しているときに風速50m/秒(時速180km)の風に襲われて、恐怖を感じました。

もうひとつは、昭和基地周辺の海氷が厚くなり、砕氷艦「しらせ」が接岸に難渋したこと。今、昭和基地の反対側の南極半島では、すごい勢いで氷が解ける一方で、逆の現象も起きているのです。そして、この例のように、様々な現象は地球上に均一に出るわけではなく、ものすごくムラがある。これが環境問題を考えるときに、非常に難しい点でもあります。

さて、こうした現象の原因や地球温暖化との関連などは、現在世界中の研究者が調べたり考えたりしているところです。私たち研

究者の仕事を積み重ねていくことで、その答えに一步一步近づいています。

進行中のプロジェクトが3つ。観測装置の開発にも積極的。

現在3つのプロジェクトが進行しています。

1つは、光を使った微粒子測定器の開発。微粒子量を測る機器は以前からありましたが、開発中の装置は、大気汚染由来の丸い粒子と黄砂のような角張った粒子を分けて測れます。黄砂の飛来を調べようと、北京、ソウル、福岡、甲府、そして木曽駒ヶ岳や富士山頂での観測も始めました。観測と解析が進めば、近い将来、天気予報のように黄砂予報も身近になり、また、当たるようになるでしょう。でもその前に、観測データをWeb上に公開しますので、楽しみにしてください。

2つ目は北極での雲の観測。実は、雲も気候に影響を与えるのですが、その性質やメカニズムはよくわかっていない。そこで、浮かんだままの雲に光を当てて画像を撮る装置を作り、4月に北極に持って行って、氷と水とが混在する雲を観測してきました。

3つ目は、太陽の周囲でキラキラと輝くオー

レオール(光環)の観測。オーレオールを発生させている微粒子も気候に影響を与えており、オーレオールを調べることで微粒子の性質を明らかにすることができます。これも装置を開発していて、今回の南極観測には試作品を持って行き、データを取ってきました。

時間と自由は学生の特権。自分の興味に正直に、アクティブな学生生活を!

進んできた道はまっすぐではありませんでしたが、そのすべてが今の私とつながっています。例えば、高専時代のものづくりは装置の開発に活かされていますし、大学時代にトライアスロンやマウンテンバイクに夢中になったおかげで、極地での観測にも耐えられる体力が培われました。皆さんもぜひ自分の興味を大切に、アクティブな学生生活を送ってください。

出会いや経験は、人を成長させてくれます。失敗も、無駄に見えることも、いつか必ず役立つ時が来ます。だからこそ、学生時代に大いに失敗して、たくさん無駄なことをして下さい。



人物発掘

こばやし ひろし

- 1994年3月 北海道大学 工学部 衛生工学科卒業
- 1999年3月 北海道大学大学院 工学研究科 衛生工学専攻 博士課程 修了
- 1999年4月 山梨大学助手
- 2007年4月 山梨大学大学院助教
- 2010年12月 山梨大学大学院准教授

【学位】

工学博士(北海道大学)

【研究テーマ】

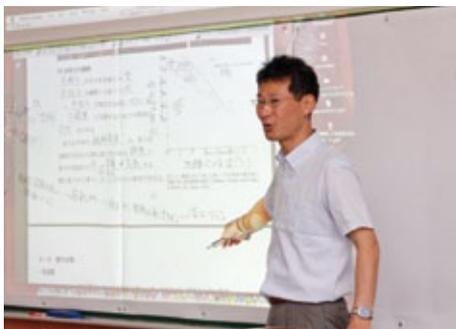
沿岸海域を対象としたリモートセンシング
エアロゾル・雲の気候影響評価

【主な著書・論文】

Development of a polarization optical particle counter capable of aerosol type classification (Atmospheric Environment) (2014年)
Improvement of shipborne sky radiometer and its demonstration aboard the Antarctic R/V Shirase (南極資料) (2014年)



南極大陸にて、上空の大気の様子を調べる測定器をぶら下げた気球を飛ばしました。



医学部薬理学講座

小泉修一 教授 http://www.med.yamanashi.ac.jp/clinical_basic/pharmaco/

研究テーマ

No Glia, No Brain (グリアの理解無くして 脳の理解無し)

脳は神経細胞の塊と思っている方が多いのですが、実はグリア細胞の塊です。グリア細胞のほうがずっと数が多いのに、これまで注目されなかった一番大きな理由は、神経細胞は興奮するのにグリア細胞は興奮しないからです。ただし、これは電気生理学的に興奮しない(Na⁺興奮性を示さない)という意味で、他の指標、例えばCa²⁺興奮性等でみると、恐ろしく興奮性の高い細胞であることが解ります。グリア細胞が興奮することにより、痛い・甘い等の知覚情報、楽しい・悲しい等の情動、さらに記憶・学習等の高次脳機能が、脳で統合・制御されている可能性が高く、また、グリア細胞の変調によって、種々の脳疾患が引き起こされると考えています。薬理学講座では、このグリア細胞の機能を知ることで、脳の仕組みや脳疾患の病因を明らかにしようとしています。

薬理学とは、文字通り「薬の理屈の学問」という意味です。花粉症の薬を飲むと何故鼻水が止まるのか、という問いに、化学物質と分子の言葉で答える学問です。これは、薬を道具として上手に使うことで、身体の仕組みや病気の原因を分子の言葉で語ることを可能とする、ということに繋がります。薬といっても、所謂一般的な化学物質の薬だけではなく、遺伝情報を直接制御するDNAやRNAそのものだったり、光で分子を制御する等の技術も使います。

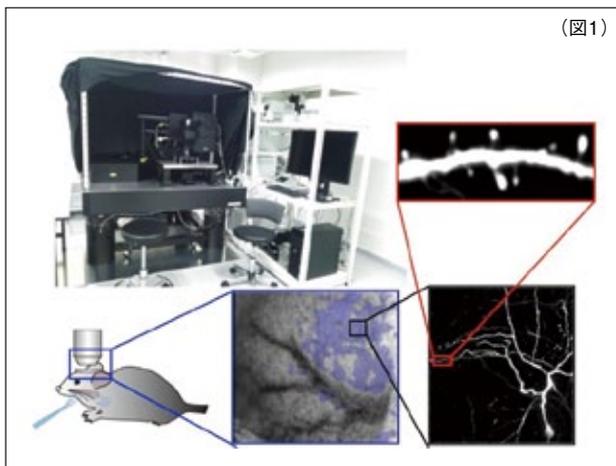
大切にしていることは、分子から丸ごとの個体までの研究を意識していることです。分子一つの機能が解っても、それが細

胞、周辺環境、回路、更に脳全体に与える影響まで解らないと、脳で何が起きたのかが解りません。分子生物学、生化学、行動薬理学までを駆使した研究を行うことが薬理学講座の特徴です。さらに、脳内のイメージング技術を大切にしています。高性能でしかも山梨大学仕様になった顕微鏡が沢山あります(図1)。これらを使ったイメージングにより、グリアと神経の機能両方を解析することにより、本当の脳機能、脳疾患の原因を明らかにできたらと思っています。スタッフに加えて、大学院生、学部学生(医学科だけでなく他学部も)、さらに他の医局からの大学院生や医員が研究に参加しています。

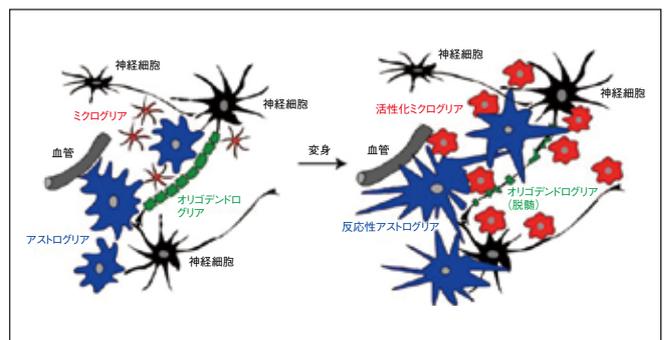


2015年の新人歓迎会(前列中央が小泉教授)

対象にしている疾患は、脳卒中、神経障害性疼痛、てんかん、うつ病、緑内障、過活動膀胱と、多岐にわたりますが、すべてを繋ぐ横串にグリア細胞があります。大学院生の出身も、医学部だけではなくありません。様々な能力、知識、バックグラウンドを持った人達が集まって、色々なアイデアを出しあって研究をすることが、最も解らない臓器「脳」を知るためには必要で、しかも近道であると考えています。



ツインレーザー搭載型2光子励起レーザー顕微鏡システム
グリア細胞によるシナプス(神経と神経の継ぎ目)が組替わる様子を生きたマウスの脳で解析中



グリア細胞は神経細胞よりも何倍も数が多く、脳内環境の変化を敏感に感知し、劇的にその性質を変化させる。各種脳疾患におけるグリア細胞の役割が注目されている。

【担当教員】

教育人間科学部

藤本 俊 教授(芸術身体教育コース)

時友裕紀子 教授(生活社会教育コース)

小山勝弘 教授(スポーツ健康科学コース)

加藤朋之 准教授(スポーツ健康科学コース)

安藤大輔 准教授(芸術身体教育コース)

木島章文 准教授(芸術身体教育コース)

木村はるみ 准教授(芸術身体教育コース) ほか



全学共通教育科目「生活と健康」では、大学生活の起点として、学問に取り組む上で有利な生活習慣の理解を促します。

学生が体力測定や各種スポーツの実技などに積極的に参加することを通して、他の学生とのコミュニケーション機会に触れ、他者と行動目標を共有する経験を得て、良好な人間関係を構築する工夫を考案・実践します。

また、講義では、現代社会における生活習慣の問題点、食事、睡眠や飲酒・喫煙などについての正しい知識を身につけ、健康増進・体力向上の方法や運動の効果を学び、よりよい生活を送れるよう自らの生活習慣に対する気づきを促進します。



【オリンピック教育】



東京オリンピック・パラリンピックが2020年に開催されることを受けて、今年度から「生活と健康I」の中にスポーツの歴史や精神について学ぶ「オリンピック教育」が開講されています。

講義は、1976年モントリオールオリンピックの体操競技で男子団体の金メダルを獲得した藤本 俊 教授が担当しています。

フランスのピエール・ド・クーベルタン男爵の提唱によって開始された近代オリンピックを、1896年の第1回大会から現在までの歴史などを紹介することで理解を深め、スポーツの現状や今後を考える上での参考にすることを目指しています。



藤本 俊 教授



興味がある方は一度練習を見に来てください！
応援もよろしくお祈りします！

山梨大学女子蹴球部

UNIVERSITY OF YAMANASHI WOMEN FOOTBALL



私 たちは山梨大学女子蹴球部です！蹴球とは革製のボールを蹴って相手ゴールにシュートして点数を競う球技、つまり、サッカーです。山梨大学女子蹴球部は1998年に創部され、今年で17年目。現在は22名の学生で活動しています。部員の多くは教育人間科学部の学生ですが、生命環境学部、医学部の学生も所属しています。学部を問わず、またサッカー経験者・未経験者も問いません。いつでも部員を募集しています。実際に、

山梨大学に入るまでは、サッカーをしたことのない部員も現在所属しています。

ま た、サッカーをしたいという小学生や他大学の学生、社会人が所属する「山梨大学エスポワール」というクラブチームも作り、サッカーをする場の提供

も行っています。普段は山梨大学東グラウンドで火、水、金、土、日曜のうち週4～5日活動しています。

女 子蹴球部は、関東大学女子サッカー連盟に加盟しています。私たちの目標は8月末から行われる関東大学女子サッカーリーグで、いまだ成し遂げることのない1部への昇格、さらにインカレ出場です。それに向けて、日々練習を行っていますが、自分たちのサッカーを目指すだけでなく、地域の子どもたちと一緒に

にサッカーを楽しむ公開講座を開いたり、県で行われるガールズ&レディーズフェスティバル等に協力して山梨県の女子サッカーの盛り上げに一役買ったり、また、グラウンドの全面芝生化を目指し芝生を植えたりなど、様々な活動に尽力しています。

さ らに昨年度、所属部員の2名がフットサル日本女子選抜に選ばれ、創部以来初の快挙を成し遂げました！また、卒業生には、現在「INAC神戸レオネッサ」などで知られる女子のトップリーグ「なでしこリーグ」の3部であるチャレンジリーグのチームで活躍するプロサッカー選手もいます。

野 外スポーツなので、日焼け止めを塗っていても黒くなってしまうことだけが難点ですが…部員全員明るく楽しく、サッカーをしています！





医学部キャンパスの大学祭には、漢方茶の試飲のブースを出店。
ぜひ、お立ち寄りください！

東洋医学研究会

THE SOCIETY OF ORIENTAL MEDICINE

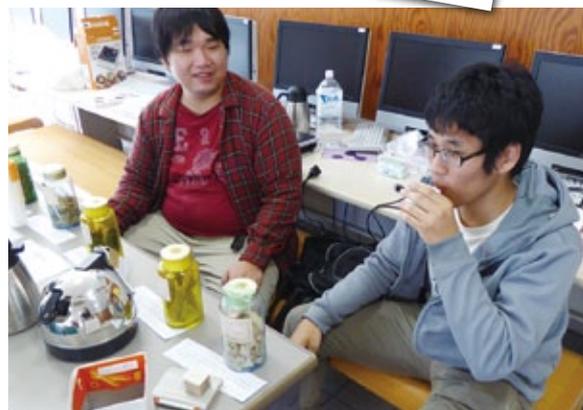


私 たち東洋医学研究会の学ぶ東洋医学は、中国において成立した中医学、またそれをもとに日本で独自に発展した漢方医学などの総体で、漢方薬や鍼灸、薬膳など臨床医学から予防医学までを含んだものを指しています。東洋医学は西洋医学とは異なった考え方で病気をとらえ、たとえば西洋医学では数値など客観的基準をもとに臓器、組織、細胞と細分化を行い分析的に病名を決定しますが、東洋医学では自覚症状を重視し、心と体には相関関係があるとする心身一元論に基づいて病気を身体全体の不調和をとらえ診断を下します。また西洋医学の治療が病因を物理的に攻撃することに主眼をおいているのに対して、東洋医学における治療は自然治癒力を高めることに重点をおいています。

ま た最近では漢方薬の有効成分やその作用機序などへの理解も深まり、東洋医学と西洋医学が融合し新たな成果が生み出されています。たとえば漢方薬の中でも葛根湯や麻黄湯はインフ

ルエンザや風邪の際によく飲まれるポピュラーな薬ですが、これらの漢方薬に共通に含まれる「麻黄」という生薬には「エフェドリン」という有効成分が含まれ、薬理的な考察の対象となります。

東 洋医学研究会では、学生主体での勉強会の開催を中心に、外部講師を招いてのセミナーの実施や、鍼灸院等を訪問して実技の学習を行うなど、多彩な活動を行っています。現在の活動としては、まず日々の勉強会において教科書を輪読形式で読んでいくことで、東洋医学の基本的な知識・考え方を習得し、その上で臨床例を取り扱い、最終的には東洋医学を生理学や薬理学とからめて複合的な視点から考えられるようになることを目標としていきたいと考えています。また、私たちは関東地方の医学部・薬学部などで同様に東洋医学を学ん



でいる学生との関係づくりも大切にしており、毎年開かれる「はるかん」などにおいて学習内容や研究結果の交流を行っています。

最 後になりましたが、東洋医学研究会は10月半ばに開催される医学部キャンパスの大学祭において、例年、漢方茶の試飲のブースを出店しております。東洋医学に興味を持たれた際には、ぜひぜひお立ち寄りいただければと思います。



「水素・燃料電池技術支援室」を開設しました。

平成27年6月、山梨県と一層緊密な連携を図り、公益財団法人やまなし産業支援機構と協調して、県内企業の水素・燃料電池分野への参入を支援し加速させるため、大学直属の「水素・燃料電池技術支援室」を新設しました。

同室を中心として、山梨大学がこれまで進めてきた国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)事業や水素・燃料電池関連の研究成果を、産業界、分けても地域産業界と強く連携して実用化展開を図ると同時に、豊富なノウハウと世界最高レベルの研究施設や設備を駆使して、県内企業への技術支援を積極的に行っていきます。

また、国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)から「固体高分子形燃料電池利用高度化技術開発事業」の選定結果が公表され、本学を代表とする産学連携チームの提案が採択されました。

この事業は、平成27年度から平成31年度までの5年間で実施されます。本学では、燃料電池ナノ材料研究センターとクリーンエネルギー研究センターを中心に、燃料電池自動車の「①更なる出力性能の向上、②貴金属使用量の低減、③耐久性の向上」に取り組み、現状より性能を10



「水素・燃料電池技術支援室」看板除幕式の様子
右から安藤輝雄氏(公益財団法人やまなし産業支援機構理事)、平井敏男氏(山梨県産業労働部長)、島田真路学長、飯山明裕室長(水素・燃料電池技術支援室)

倍程度向上させるため、電極触媒材料や電解質材料の新たなコンセプトを提案し、平成37年頃に市場投入される次世代型の燃料電池自動車など産業界による実用化につなげます。

2015 「連続市民講座」 受講者募集中!

山梨大学は今年度も読売新聞甲府支局と共催し、「地を識る～知の拠点から～」と題した全10回の連続市民講座を開催しています。

今年度は、音楽や歴史、材料加工や細胞研究、地域づくりや地域医療など、多岐にわたるテーマについて、分かりやすく解説します。

第4回まで終了していますが、これから開催される講座がありますので、ぜひご参加ください。

【日時・場所】

開催日：『スケジュール一覧表』参照

会場：山梨大学 甲府東キャンパス A2-21教室

定員：330人

時間：午後1:30～3:00まで(午後1:00開場)

受講料：無料

【お問い合わせ先】

〒400-8510 甲府市武田4-4-37

「山梨大学教務課連続市民講座担当」

電話：055-220-8044 FAX:055-220-8796

【スケジュール一覧表】

	開催日	講義題目	講師
第1回	4月18日(土)	ハーモニーによる心のマッサージ	片野耕喜 教授 (教育人間科学部)
第2回	5月16日(土)	地域づくりと地方	藤原真史 准教授 (生命環境学部)
第3回	6月20日(土)	里山に住む人々を支える力	山崎洋子 教授 (医学部)
第4回	7月18日(土)	ヒーロー誕生の物語 ～甲州地誌「裏見寒話」を読み解く～	長谷川千秋 准教授 (教育人間科学部)
第5回	9月19日(土)	材料を加工し地域を活性化	園家啓嗣 教授 (工学部)
第6回	10月17日(土)	廃棄物を通して環境と資源を考える	金子栄廣 教授 (工学部)
第7回	11月14日(土)	健康づくりはまちづくり ～人と人とのつながりが命を守る～	山縣然太郎 教授 (医学部)
第8回	12月19日(土)	iPS細胞とは何か ～細胞の初期化とは～	黒澤 尋 教授 (生命環境学部)
第9回	平成28年 2月20日(土)	「子どもと地域」を科学する ～地域にとっての子ども・子どもにとっての地域～	加藤繁美 教授 (教育人間科学部)
第10回	平成28年 3月19日(土)	乳から見える世界いろいろ ～持続可能な日本型乳食文化創造に向けて～	谷本守正 教授 (生命環境学部)

*詳細はホームページをご覧ください。

http://www.yamanashi.ac.jp/modules/extension_courses/index.php?content_id=2

表紙について

今号から表紙のデザインを一新しました。

◎今号の表紙写真…「G-フィロス」

「G-フィロス」は、異文化理解や語学学習等を通じ、学生間で互いに学び合い国際的なコミュニケーション能力を育成する場として利用されています。

日本語学習支援、留学生SAや英語アドバイザーによる英語学習サポートなどもあり、多くの留学生、日本人学生の交流の場となっています。(今号P4～P5「国際交流センター」の記事をご参照ください。)



編集後記 『山梨大学広報Vine26号』をお届けします。

4月に新学長として、島田学長が就任しました。大学内の様々なことがこれまで以上に変わっていくでしょう。『Vine』で、その一端をご紹介していきたいと思っています。

今号では、「学長オフィスアワー」取材し、学長と学生との懇談の様子をお伝えしました。

また、平成26年に新設された「国際交流センター」について、茅センター長に紹介していただきました。

加えて、南極観測隊に参加した生命環境学部の小林准教授のインタビュー、近年注目を浴びる「グリア細胞」を研究する小泉教授の「医学部薬理学講座」などの記事を掲載しましたので、講義や研究の一端に触れていただければと思います。

8月にはオープンキャンパス、秋には大学祭があります。高校生の皆さん、本学にぜひお越しください。

(広報グループ)

山梨大学広報 **ヴァイン** vol.26
JULY

発行者:山梨大学総務部総務課

[本誌に関するご意見・お問い合わせ先]

山梨大学総務部総務課

TEL:055-220-8006 FAX:055-220-8799

E-Mail:koho@yamanashi.ac.jp

山梨大学ホームページ

<http://www.yamanashi.ac.jp/>



山梨大学
UNIVERSITY OF YAMANASHI



この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。